

登録コード	F3D50820	開講年度	2026	県内大学開放授業			
授業科目	生態学			担当教員	平林 公男		
英文授業名	Ecology			副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限		対象学生
講義室	繊維3 4 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2 4 Fカリ・応用生物, 2 3 Fカリ・応用生物, 2 2 Fカリ						
	生物の詳細な構造・構成成分・機能についての基礎学力			⇔	生態学の基礎的な内容について、家族に説明できるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	理工系大学生が学ぶべき生態学の内容について触れ、最も身近な河川生態系を例にして、それらの基礎となる知識も含めて、応用生態学的な視点から解説を加える。 毎回の授業前には、各自が教科書該当章の内容を良く読み込んで、概要を理解した上で講義に臨む。講義では内容のポイントと関連事項を解説するので、理解できないところ、発展的な内容などについては質問を受け、さらに理解を深める。前講義の復習のための小テストを翌週講義の始めに行い、内容を確認する。 担当教員が以下の実務経験を生かして、講義を行う。長野県環境審議会会長、佐久市環境審議会会長 国土交通省ダムフォローアップ委員会委員、同省信濃川水系河川整備計画委員ほか。						
(5)授業計画	100分授業（15回分）で、以下の予定で基本的には進める。 1回目 生物群集の構造・生物間相互作用 2回目 生態系の概念・食物連鎖と生態系の安定性 3回目 個体群の成長 4回目 生態系と生物多様性 5回目 人間活動と生態系 6回目 第1回から5回までのまとめと振り返り試験（中間） 7回目 陸水と海水(P34-35)、河川の基礎知識(1・3章) 8回目 生息場空間の階層とその特徴(2章) 9回目 多様な生息場(6章) 10回目 摂食機能群と食物網(4章P39-41) 11回目 水中流下物（溶存態・懸濁態）とストックとフロー(第5章) 12回目 生物生産性(11章) 13回目 生物生産と河川生態系(9章) 14回目 河川連続体仮説RCC(4章) 15回目 第7回から14回までのまとめと振り返り試験（期末） 16回目 試験 アンケート回答						
(6)成績評価の方法	講義の始めに、前回講義の内容確認小テストを時々行い、重要事項の確認を行う。また、重要な用語についても、事前に調べて、レポートの形で提出をしてもらうこともある。これらを点数化し、総合的に評価する(20%)。中間振り返り(30%)、期末振り返り(50%)に、講義内容や重要用語などに関するまとめの試験を行う。手書きのノートの提出を求めることもある。						
(7)成績評価の基準	授業で解説した内容と同レベルの問題が解け、説明ができれば「水準にある」、授業で説明した内容の応用的な問題が解け、説明ができれば「やや上にある」、講義以外の知識が必要で、応用的な問題が解ければ「かなり上にある」、講義以外の知識が必要で、なおかつ、難しい応用的な問題が解ければ「卓越している」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容	講義の始めに、前回講義に関する小テストを時々行い、授業の重要事項の確認を行う(復習)。また、次の講義で重要な用語や事柄について、各自で事前に予習したり、必要に応じて事前に課題を出すので、各自で調べ、レポートの形で、講義当日開始前にe-Alpsに提出をする(予習)。						
(9)履修上の注意	教科書は必ず購入すること。試験でも使用する。						
(10)質問,相談への対応	毎時間、講義終了時に質問時間を確保する。対応できる時にはいつでも対応する。研究室は応用生物学棟2階の平林研究室まで。メールでも受け付ける。kimio@shinshu-u.ac.jp						
(11)学生へのメッセージ	積極的に講義に参加できることを望む。講義を欠席することは基本的にあり得ないが、公欠等やむをえない欠席の場合には、該当講義時間開始前までに、メールなどで必ず担当教員に申し出ること。						
(12)その他	他学科の学生が受講を希望する場合には、講義開講時に必ず申し出ること。						
【教科書】	河川生態学入門(平林・東城 編著)共立出版（2700円）						
【参考書】	大学生のための生態学入門(西村 著)共立出版（2400円）、その他、必要に応じて紹介する。						